

キャラクター名
神谷 狐恋

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ウロボロス		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	
	オプション		年齢	3	性別	♀
覚醒	無知	衝動	妄想	初期侵食率	42	%
出自	人類への興味	経験	仲間との接触	邂逅	友達	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	35
肉体	2	1	3			6	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:	1		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
神風招来		0				コスト2: 対象の判定グイス+5 ラウンド1回
神風招来100↑		0				コスト2: 対象の判定グイス+6 ラウンド1回
幻影・無形斬	白兵	10r		6		コスト11: 転移、装甲無視、C値7
幻影・無形斬100↑	白兵	11r		7		コスト11: 転移、装甲無視、C値7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
破魔ノ薙刀	
ウェポンケース	
スマートフォン	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 戦闘用人格P		N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒュムズ`ネバ`	1	+5	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定グイス+Lv個 人間そっくりに装う事ができる								
オジ`ン: レジ`ェント`	1	2	マイ`	至近	自身	自動	RB	
効果: シーン中【精神】の達成値+Lv*2個								
コンセプト: ハヌマーン	3	2	Xジ`ャー	-	-	-	-	
効果: クリティカル値を-Lvする。								
援護の風	5	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定グイス+Lv個 ラウンド1回								
吠え猛る爪	1	2	Xジ`ャー	武器	-	白兵	-	
効果: 装甲無視 攻撃力-[5-Lv]								
雲散霧消	5	4	オート	至近	範囲(選)	自動	-	
効果: HPダメージ-[Lv*5] Iフェイトによる攻撃限定								
否定のひとと触れ	2	3	オート	至近	単体	自動	-	
効果: カバ`リックIフェイト解除 シーンLv回 対象は改めてIフェイトを使用せずカバ`リック`を行っても良い。								
原初の赤: 瞬足の刃	3	3+1	Xジ`ャー	武器	-	白/射	-	
効果: 判定グイス+[Lv+1]個								
原初の緑: 竜鱗	2	3+1	リアク`ション	至近	-	自動	-	
効果: 命中する代わりに装甲値を+[Lv*10]して計算する。								
原初の紫: 縮地	3	3+1(+4)	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動か全力移動の際に使用 シーンのどこにでも出現できる 離脱可能 シェアLv回								
エ`ーアイテム取得	2							
効果: 妖刀を取得								
軽功	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 垂直な壁面や水面も走れる								
イ`ージ`-フェイカ`: 壁抜け	1	+1	Xジ`ャー	至近	自身	自動	-	
効果: 密室、閉鎖空間、壁を無視して移動 場合によってはRC判定								

神谷 狐恋(カミヤ ココ)

ボクが生まれたのは既にボロボロな廃寺だったよ。どうやら昔ころへんにいたとされる白狐の伝承がボクの元になったんだと思う。行く場所もどこかに行く理由もなく、しばらくその廃寺に住んでいたんだけど、ボクの元になった伝承を作ったのは結局は人間なんだよなって思ったら興味がわいた。

別に生身でも良かったんだけど、この廃寺ともお別れだし何か思い出になるもの持っていこうと思ってね。住み慣れたこの廃寺を色々探したら、今まで開けようとしてもびくともしなかった「開かずの間」の扉がキ`って音を立てて勝手に開いたんだ。

呼ばれてる気がして中に入ると札が何枚も貼られた長い箱があった。ちょっと気味悪かったけど、気がついたらその箱に手をかけ開けていた。中には装飾された杖のような、短すぎる薙刀のようなそんな武器が入っていた。

「これをボクにくれるの？」

もちろん、廃寺は自分を除いたら無人だし返事は聞こえるはずがない。

「ありがとう」

ボクは一言そう言って、その廃寺を出て行った。